

投稿

山片蟠桃生誕の地を訪ねて

鳴沢真也（兵庫県立西はりま天文台）、皆神龍太郎（と学会）

1. 山片蟠桃（1748-1821）

麻田剛立のことは、本誌読者の方々ならご存知のことだろう（例えば、[1]）。大阪に日本初の天文私塾「先事館」を開いた剛立に薫陶を受けた人物の一人に、山片蟠桃（やまがたばんとう）がいる。蟠桃の著書「夢の代」（ゆめのしろ）は、日本で最初に地球外知的生命の存在について記述された文献である。まずは、この蟠桃という人物について簡単に紹介する。

蟠桃は、1748年に現在の兵庫県高砂市に生まれた。13才で大阪の米仲買両替商「升屋」に仕え、24才で番頭となり、わずか8才の当主・重芳を支えた。当時経営難に窮していた升屋のみならず、取引があった仙台藩の財政再建に成功、升屋を豪商までに成長させることに尽力した。現代風に言えば勝ち組大企業のマネージャーである。姫路藩は、蟠桃の意見を徴すべく国老が上座にすえて話を聞くほどであった。

蟠桃と剛立の交流は、剛立が先事館を創立した当初から始まっている。升屋当主の重芳は、オランダなどから高価な天体観測装置や洋書を輸入して剛立一門に使わせていた。特に、江戸から渡来品の「ナクトケーケル」という天文観測機器を購入して、剛立に貸与している。蟠桃も、天文現象に関する知識をまとめた「昼夜長短図並解」（1793）を執筆している。

1982年、大阪府は日本文化に関する賞、「山片蟠桃賞」を創立した。このネーミングは司馬遼太郎の提唱によるものである。

2. 「夢の代」と地球外知的生命

山片蟠桃の著書「夢の代」は、近代日本思

想史に傑出した大著である。1820年に完成、全12巻からなる。宇宙、地理、森羅万象から米相場の機構、子供の躰（しつ）けまで扱っている。松平定信も取り寄せて読んで賞賛しており、また吉田松陰も獄中で読んでいる。

「夢の代」の中で、蟠桃は廃佛論・無神論を主張、また地動説を支持している。その末巻は以下の和歌で結ばれている。

地獄なし極楽もなし我もなし

ただ有るものは人と万物

神仏（かみほとけ）化物もなし世の中に

奇妙不思議の事は猶（なお）なし

一方で、「夢の代」（巻之一、天文第一）には以下の記載がある。

「およそこの地球に人民・草木あるを以て推すときは、他の諸曜といえども、大抵大小我が地球に似たるものなれば、みな土にして湿気なるべし。蹴鞠または紙張りのごとくにはあらざるなり。しかればすなわち、太陽の光明を受けて和合せざることなかるべきや。すでに和合すれば水火行われて、草木の生ぜざることなし。また虫はもとより生ずべし。虫あれば魚貝・禽獣なきことあたわず。しからば則、なんぞ人民なからん。ゆえに諸曜みな人民ありとするもの、我の有を以て拡充・推窮するものなれば、妄に似て妄にあらず。虚に似て虚にあらず。仏家・神道のごとく無稽の論にあらざるなり」

これが、日本における地球外知的生命の存在に関する最初の言及である。西洋では古代ギリシャの哲学者エピクロス（BC341-270）がヘトロドスに送った手紙の中で地球外生命体について考察している。地球外「知的」生命への関心が生まれたのは、蟠桃よりも200年以上も早く、16世紀に異端として火あぶり

にされた天文学者のジョルダナーノ・ブルーノ（1548 - 1600）が著書の中で論じている[2]。



図1 「ばんとう通り」を示す石碑



図2 蟠桃の生家跡（現在はアパートで駐車場に石碑が建っている）



図3 蟠桃が結婚記念に寄進した灯籠

3. 生誕の地へ

筆者の一人鳴沢は、SETI（地球外知的生命探査）観測を行っている（例えば、[3]、[4]、[5]、[6]）。また皆神は疑似科学ウォッチャーで、特に UFO エイリアンクラフト説に対する懐疑論を展開している（例えば、[7]、[8]、[9]）。

二人とも山片蟠桃に魅せられており、出生の地を訪ねることにした。読者の中にも興味を持たれて訪問される方がいる可能性もあるので、道順を追って紹介したいと思う。

JR 山陽線「宝殿駅」（兵庫県高砂市）を下車、北口を降りた場所に地図がある。ここに「かな公園 山片蟠桃像」の記載がある。これで生誕地へのおおよその見当がつく。左側（東）に、タクシーの待機場があるが、その手前に「山片蟠桃誕生の地 神爪」と書かれた石碑、道の向い側に看板があり蟠桃の簡単な紹介が書いてある。この道を左に 600m ほど（駅からは北西方向に）行くと、やや幅の広い道路と交差した場所に出るが、道の対面に「ばんとう通り」と書かれた石碑がたっている（図 1）。交差している道が、「ばんとう通り」である。

右（北）に向かって、約 50m 行った左側にアパートがある。ここがまさに蟠桃の生家であった場所である。アパートの駐車場にある石碑（図 2）には「山片蟠桃生家系屋の跡」と記載されているが、駐車している車があると、この石碑を見落とすので注意が必要である。蟠桃がここ高砂市神爪（かずめ）地区に誕生したのは、260 年前のことである。百姓長谷川小衛門の男三人兄弟の次男として生まれている。

「ばんとう通り」の石碑に戻り、西へ 60m の場所に鳥居、その前に灯籠がある（図 3）。すぐそばの石碑には「山片蟠桃結婚記念に寄進した灯籠」と記されている。

そのまま 150m 進むと、今度は「山片蟠桃幼少時父と酒屋を営んでいた家跡」の石碑がある（図 4）。大阪に出るまでの間に商売の基礎を学んだ場所である。その家屋は戦後まで残っていたようである。

道に沿ってさらに 200m ほど行ったところにあるお寺が覚正寺である（図 5）。幼児の蟠桃は、ここの寺子屋で読み書きを習っていた（晩年には住職に対して廃佛論をいどんだのであるが・・・）。蟠桃は「夢の代」完成の翌年に 74 才でこの世を去っている。墓は、大阪北区の善導寺にあるが、神爪の共同墓地にも村民が顕彰墓をたてた。この顕彰墓は 1998 年に風化防止のためにこの覚正寺の境内に移設されている（図 6）。徹底した無神論者、蟠桃は寺に顕彰墓があることをどう思うのだろうかなどと考えたが、死後の靈魂の存在を否定していた蟠桃であるので、この疑問も愚問であろうか。なお境内には朱塗杯も保管されているようである。72 才で幕府より表彰された蟠桃が、神爪の親類、友人に感謝をこめて贈呈したものである。

4. 終わりに

正覚寺から 240m ほど宝殿駅側に戻ると「かな公園」という小さな児童公園がある。ここに山片蟠桃の像がたっている（図 7）。



図4 幼少期に父と営んでいた酒屋の跡（現在は民家が建っている）



図 5 覚正寺



図 6 覚正寺境内にある蟠桃の顕彰墓



図 7 山片蟠桃像（かな公園）

説明には蟠桃に関する概要が記されているが、天文にも通じた人物であったことが記載されていない点は、やや寂しい気持ちが残った。

山片蟠桃がこの世を去って約 200 年。日本でもやっと、SETI がまっとうな学問のひとつとして認められる時代がやってきつつある。日本人という概念すらまだはつきり意識されていなかったであろう江戸時代に、地球外知的生命という、他の惑星に住む住民にまで思いをはせた山片蟠桃。その先見性には、本当に驚かざるを得ない。

テレビの特番などでは、幽霊と宇宙人は、未だ同じカテゴリーの中で好奇心をもって語られている。だが、「夢の代」のなかで「無鬼論」を展開し、霊や鬼やたたりといった概念を徹底的に論破してみせた蟠桃は、異星人については、「妄に似て妄にあらず」と看破し、はっきり肯定して見せた。

異星人の存在は科学の対象であって、霊やたたりといったオカルトとは一線を画するものである、ということを、蟠桃は、江戸時代の段階ですでに高らかに宣言していたのである。

「かな公園」にたつ蟠桃の像と向かい合うと、果たしてこの 200 年、日本人は本当に進歩してきたのか、という思いに襲われる。台座の上から平成の世を見下ろしている蟠桃の像が、苦笑しているかのように感じられた。

だが、さすがの蟠桃も生誕の地、兵庫県で SETI 観測が実施されることを予想できたであろうか？ 筆者の一人鳴沢などは、SETI 観測に用いる次期観測装置（高時間分解能光子計数装置）の開発を進めているが、これに「バントウ」という愛称をつけようと思っている。

この原稿における山片蟠桃や「夢の代」に関する記載は、文献[10]、[11]、[12]などに基づいている。文献[10]、[11]を提供して下さった神爪郷土歴史研究会の長谷川裕巳氏に記

して感謝の意を表す。なお実際の神爪地区訪問には、西はりま天文台の内藤博之氏他も同行している。

文 献

- [1] 嘉数次人 (2007) 天文教育 19 : 25.
- [2] ジョエル・アカンバーグ (2003) 『人はなぜ異星人を追い求めるのか』, 太田出版.
- [3] Narusawa, S. & Morimoto, M. (2007) *Annu.Rep. Nishi-Harima Astron. Obs.* 17 : 1.
- [4] 鳴沢真也 (2006) 『137 億光年のヒトミ』, 草炎社.
- [5] 鳴沢真也 (2008) 天文教育 20 : 24.
- [6] 鳴沢真也・森本雅樹 (2006) 日本天文学会 秋季年会 Y03c.
- [7] 皆神龍太郎 (2006) 『ダ・ヴィンチ・コード最終解説』, 文芸社.
- [8] 皆神龍太郎 (1996) 『宇宙人と UFO とんでもない話』, 日本実業出版社.
- [9] 皆神龍太郎 (2008) 『UFO 学入門—伝説と真相』, 楽工社.
- [10] 神爪郷土歴史研究会 (1996) 『郷土が生んだ偉大な先駆 山片蟠桃』 (小冊子).
- [11] 神爪郷土歴史研究会 (2008) 『高砂市神爪が生んだ世界に知られた先人 山片蟠桃』 (小冊子).
- [12] 水田憲久・有坂隆道 校注 (1973) 『日本思想体系 43 富永仲基 山片蟠桃』, 岩波書店.

鳴沢真也

皆神龍太郎